





パパの家が
ママの家が

どっちか選べと
言われたから

おじいちゃんち

と選べたら



ふたりとも
目をまん丸くしたので

よいものを
見れた気がした

“これから
おじいちゃんの家で
暮らします”

そう言われた時の
おじいちゃんの様子は
よく覚えてないけど

○ではなかった











まわりは
とんだ
とばっちりです

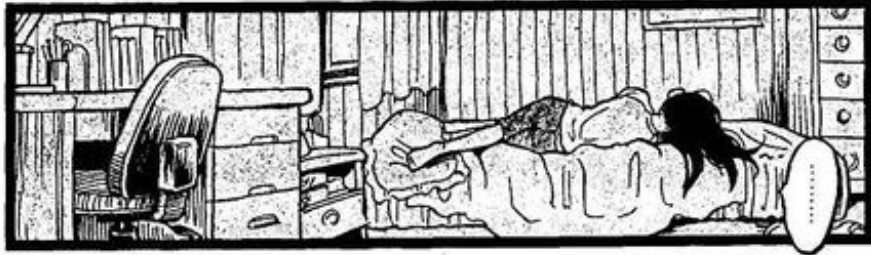


困らせて
楽しんであたしは
まだ大丈夫
まだ余裕あるって



あー
面白かった
アハハハ!

つうそうそ!
あたし4月生まれ
だし!

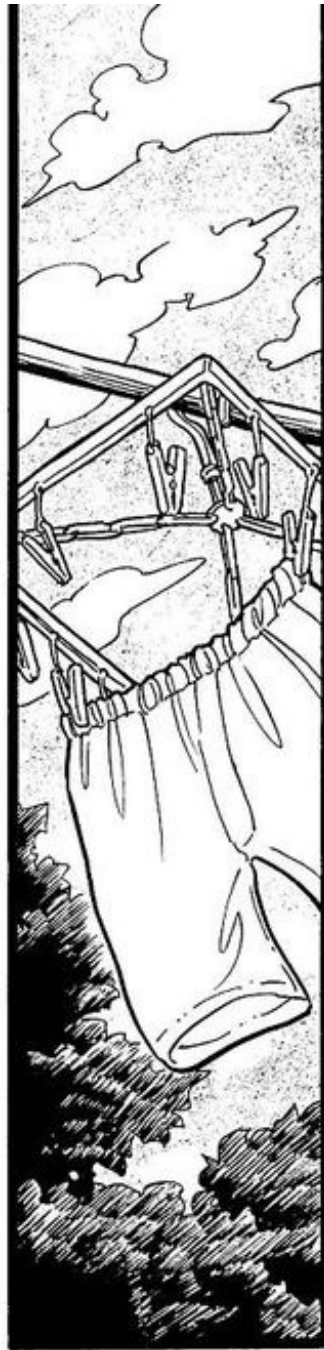


おじいちゃん?



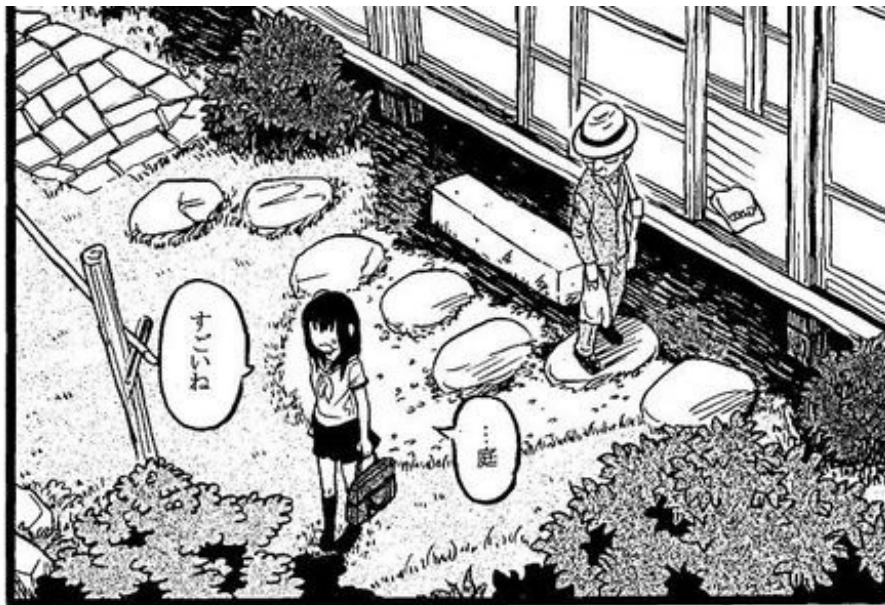
晩ごはん
遅したあ...









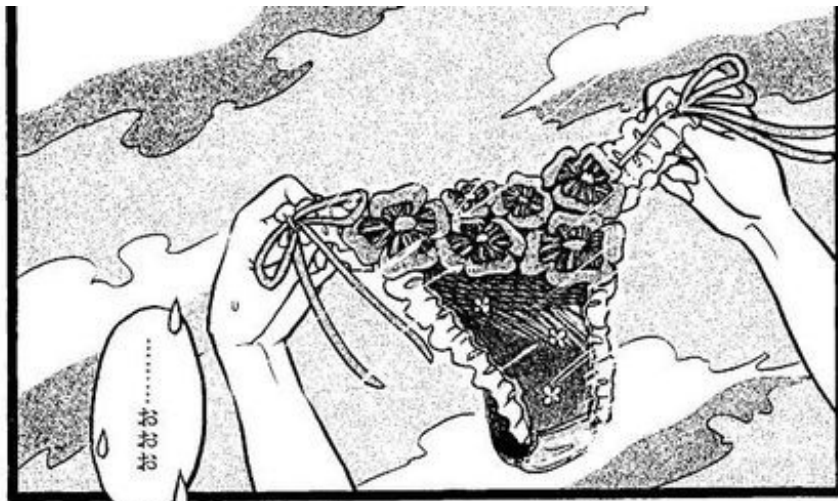


そしたらおじいちゃんの庭を思い出した

頭んなか
ぐちゃぐちゃみたいなの
空っぽみたいなの
ぐちゃぐちゃになって
逃げ出したくてあたしは







死んだばあちゃんの
再婚相手は



やっぱちよつと
ハードパンチャー
かしんない……

「うまくやっけていきたくない
わけではないのだ」



おじいちゃんの困った顔が
そう言ってるように
見えたのは



そういう
困った顔で
笑っているから



きつと今
あたしが

おじいさんは野を越え山を越え

ランジェリーショップに
ひとり入り
数あるパンツの中から
一枚を選ぶ

「ありがとう」も
「ごめんなさい」も

究三郎に
2度めの冒険を
させた女は
このアタシでワケね♪

なんて台詞も
さらりと吐けちゃう
ようなあたしだったら



毛皮で
金バツで
ピストルだし



キューザフローの
パンツだって

見事に
はきこなすん
だけども

おわり